

令和6年8月

橋本市教育委員会定例会会議録

令和6年8月26日

教育委員会定例会会議録

開催日時 令和6年8月26日(月) 午前10時30分～

開催場所 教育文化会館 4階 第5展示室

出席者 教育長職務代理者 吉田 元信
委員 田中 敬子 藪下 純男 中下 小夜
教育長 今田 実

出席職員 教育部長 岡 一行 教育総務課 課長 丸山 恭司
学校教育課 課長 大谷 裕幸 生涯学習課 課長 長谷川 典史
中央公民館 館長 中田 幸 参事 阪口 浩章
教育相談センター
センター長 森田 常義 教育総務課
教育総務課 課長補佐 中林 正
学校再編推進係長 東 和宏 教育総務課
学校再編推進係 東川 雅哉

1 開会

2 会議録署名委員の指名について

3 報告事項

報告第1号 教育状況について

報告第2号 第2期橋本市立小中学校適正規模適正配置基本方針の修正について

4 閉会

開会 午前 10 時 30 分

教育長 おはようございます。これから令和 6 年 8 月定例会を開会します。
本日の出席委員は 5 名です。
本日、傍聴者が 5 名おられます。公開の会議として進行してよろしいでしょうか。

はい。

教育長 前回の会議録の承認について、吉田委員お願いします。

吉田委員 はい。的確に記載されていました。

教育長 ありがとうございます。
今回の会議録署名委員は、田中委員をお願いします。

田中委員 はい、承知しました。

教育長 報告第 1 号、教育状況について、私から報告します。

まず、8 月 19 日から 21 日までの日程で行われた橋本市子ども冒険村について報告します。今年度は、青年リーダーの子ども冒険村への強い思いを反映して、アフターコロナになり初めて、2 泊 3 日で計画し行いました。3 日間の活動メニューが充実し、多少ハードな内容となったことはありますが、参加した児童、指導者側の青年リーダーの両者が、達成感を感じることができたのではないかと思います。

開村式では、緊張ぎみの表情だった児童が、閉村式では、一体感を感じることができる集団となっていたことに象徴されるように、児童の成長を、私自身が感じることができました。何より「楽しい 3 日間だった」と、笑顔で話す児童が印象的でした。

事前準備、事前学習、そして事後学習、リーダー研修と冒険村だけでなく、その前後の活動も育成のポイントとしているので、年間を通したリーダー育成の事業であることを、担当職員が意識しながら、今後もこの事業が充実できるよう取り組んでいって欲しいと願っています。

次に、8 月 11 日に行われた、岡潔数学体験館事業、「おりがみをテーマにしたさんすう体験教室」について報告します。

この日の講師は、東京大学大学院生で、おりがみアーティストの益子遼祐さんです。橋本市が、東京大学先端科学技術研究センターと包括連携協定を結んだときから、私自身が、是非とも実現したかった体験教室の 1 つでした。

折り紙といえば「鶴」と言われる、鶴を折りながら、算数や数学との結びつきについて学んだり、ミウラ折りを通して、自然、理科との結びつきを学んだりしながら、芸術、折り紙と算数、数学や科学への興味が高まる教室にさせていただきました。

益子さんには、子供たちの目の前で折っていただきながら、また益さんの作品を実際に見せていただきながらの教室としたかったのですが、南海トラフ地震情報「巨大地震注意」が出された時期と重なり、交通機関のダイヤの乱れに影響され、急遽オンラインでの教室となりました。

しかし、日頃から折り紙に興味を持っている児童が参加していることもあってか、参加した児童はオンラインでの映像をしっかりと見ながら、課題に取り組むことができていました。この教室は、できれば継続的に行っていきたいと考えています。

今年度、特別講座として考えているのが、今回の教室と名誉館長、神崎亮平先生の教室です。神崎先生の教室は2月に実施予定です。

これからも、子供たちの算数数学だけでなく、学びへの興味を持たせる教室となるよう工夫、充実させていきたいと考えています。

以上で教育状況について報告を終わります。このことについてご質問ご意見はありませんか。

田中委員

夏休みの間、いろんな事業があって、子供たちも楽しかったらうなと思っております。見学させていただいたことのご感想を述べさせていただきます。

冒険村の方は、リーダーのお姉さん、お兄さんが積極的にしている中、子供たちも楽しそうに付いて行っていた。また自発的にいろんなことをしていたのが印象的だなと思いました。また、市職員の方の寄り添い方が、リーダーの人の手助けなどあまりせず、いい距離感で見てくださっていたなあとと思いました。いい時間だったのだろうなというのは本当に笑顔を見てわかったので、ご苦労をおかけしたと思いますが、また来年も楽しく開催されることを楽しみにしています。

もう1つ折り紙教室。私は高学年の最後の方だけ見学させていただいたのですが、一番最後の難しい折り紙も、子供たちは一生懸命、親子で取り組んでいる時間がよかったなあと、見させてもらいました。最後の難しいのが、完成するまで時間が足らなかったで、そこが少し残念。できたという達成感があればもっとよかったのかなあとというふうに個人的には感じました。

折り紙をテーマにしたということだったので、できたら、図書館にその日、折り紙のコーナーを作るなり、帰りに立ち寄ってもらえるような工夫があったらよかったのかなあと。何か連携できるようなことがあればよかったのかなと思って見させていただきました。

吉田委員

私も、この8月19日から21日までの子ども冒険村の8月20日の日、キャンプファイヤー前に、ちょっと見学させていただきました。その中で感じたことは、この活動を通して、リーダーの育成、これはかなり良い活動だなということと、あと、やはり子ども冒険村を通じてですね、児童の集団での体験学習、要するに、相互の世代にとって、非常に有用な活動だというふうには感じました。

同時に、信太小学校のいわゆる跡地利用ということでSHINODATABASEとして、これが活用されているということは、非常に良い流れになっているなというふうに感じました。

そして、私自身は参加できなかったのですが、岡潔数学体験館事業ということで折り紙のテーマでこういった形で、岡潔数学体験館を通じて、いろいろな講演会を通じて、地域の子供、児童が考える力を養う、楽しみながら、やっていってもらえれば非常に良い施設の活動と、成果ということに繋がっていくだろうなと思います。次回はぜひとも参加させていただきたいと思います。

中下委員

私は8月11日に行われた、岡潔数学体験館事業、折り紙がテーマの体験学習に参加させていただきました。低学年の部だったのですが、本当に親子で、折り紙を通じて楽しめる環境っていうか、なかなか講師の先生の言葉だったり、していることは、結構難しかったりする場面もあったのですが、子供たちはそういうことを全く気にせず、折り紙を楽しむ、最後は自分で自由に折ってみようっていうときには本当に楽しく、私たちは四角い紙を持ってどうしようって固まっていたのですが、子供たちは本当に楽しく折り紙を通して、学ぶことの大切さだったり、将来的には、算数って楽しいな、こんな図形に繋がっていくのやなみたいなの、そんな意識を培う本当にいい時間だったような気がします。岡潔数学体験館もあるのですが、そこからこうやって、地域に飛び出しながらいろんな子供たちや地域の人たちに、数学、岡潔さんの偉業っていうかそういうのを伝えていっていただけたらなと思いました。いい時間を過ごさせていただきました。

藪下委員

子ども冒険村の運営について、本当に暑い中ご苦労さんでございました。僕は2日目、お昼前に行かせていただいたのですがけれども、体育館でオリエンテーションを受けて、それからお昼の準備、火を起こす作業をしているところだったのですが、リーダーの指導のもと、小枝をこんなふうに積んだら、効率的に火がうまく起こるのだからってことを指導してもらっていて、見ていて本当にほほ笑ましい感じを持ちました。そういう体験をしたこともない子もいたようなのですが、うまくできて、「ワー」って、歓声上げていましたけども、見ていて本当にこちらもうれしくなってきました。

それからこれ、吉田委員も言ってくれたことなのですが、元信太小学校のところ、今SHINODATABASEって言いますが、TCAが普段管理をしています。週末は割合グラウンドにテントが張られています。この暑い中でも何組か来てるのですが、こんなふうに利用されているの本当にいいなという感じがしました。

教育長

小学校5年生で子ども冒険村へ参加して、そのあと、中学生から高校生のリーダー育成を充実させるのが、橋本市としての課題やっていうことを、もうかなり前から言われていたのですが、それを本当に子ども冒険村を通じて、リーダー育成のすそ野を広げてくれているなど、そんなふうに思います。そして、そのリーダーを卒業した子らが今どんなことをしているかということ、教員になったり、役所の職員になったりしてくれている方もおられます。そしてそんな方が、そのリーダーの活動を見に来てくれたりするのですね。そして、精神的な支援をしてくれるっていうような、そんなことに繋がっていたり、学校で先生になったリーダーが、こういう活

動なのだよっていうことで伝えてくれて、そして参加者を確保してくれたりっていうことで、リーダー自身が、自分のできる範囲で、自分たちのやっていることの良さっていうのを、広く知らしていこうっていうようなそんな意識も持ってくれているところはすごく嬉しいなと思いました。当日も、元リーダーの方々も何人か来てくれて、そんな話を聞くことができ、私自身はすごくうれしかったです。

また、折り紙教室ですけれども、やはり折り紙って言ったら、算数・数学と何も関係ないような感じするのですが、折り紙の折り目の交点っていうところに着目すると、ルールがあるんですね。そんなことを気づかしてくれたり、ミウラ折りっていう折り方っていうのは、昆虫であったり植物であったり、そんなところにも生かされている、これ反対なのかもしれません。昆虫や植物がそもそもそういうような折り方をしている、それを科学的にとらえると、こういうふうになったと思うのですけれども。そういう自然とアートと技術っていうのは、一緒になっているのだよっていうことにも気づかしてくれました。そんな教室であったと思います。自然の中には、数列なんかもいっぱいルールとして、あるんですね。そのようなことも神崎先生と話している中で、そういったことにも子供たちに触れさせていきたいよねっていうようなことを言っています。できる限り自然の中で、身近なもの、学ばっていいのを繋いで、興味を持たせるっていうような活動をしていきたいとそんなふうに思っていますので、委員の皆様方についても、活動を見ていただいて、またご意見いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

他にございませんか。

はい。ないようですのでこれで報告第1号を終わります。

次に報告第2号に入ります。報告第2号、第2期橋本市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の修正について報告をお願いします。

事務局から説明願います。

教育総務課長

はい。よろしくお願いします。それでは報告第2号、第2期橋本市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の修正について報告させていただきます。これまでの会議で、たくさんご意見いただく中なのですけれども、今回ですね、橋本中央中学校区、紀見東中学校区、学校再編の目標時期という形で、3点に整理させていただきましたので、そのことにつきまして担当の方から説明させていただきます。

学校再編推進係長

はい。それでは、資料2ページからご説明させていただきます。こちら大きく3つの基本方針の修正点について整理した表になっております。一番左側が現在、第2期の基本方針の内容となっております。また、その右側については、これまで議論いただきました、第2期の基本方針の修正に向けての意見ということで、いただいたご議論等を書かせていただいています。そして一番右については、現在の進捗状況等ということで記載させていただいております。

まず1番目、こちらについては橋本中央中学校区の学校再編についてですが、学文路小学校・清水小学校・橋本小学校の再編統合を検討するっていうことで現在進めております。こちらにつきましては、地域の説明会、また保護者の説明会等いただいた意見をもとにこういった案を検討するっていうことで現在進めておりま

す。進捗状況につきましては、橋本小学校及び橋本中央中学校の学校の施設の状況を確認いたしました。こちらの橋本小学校は、3校の小学校のうち一番大きな学校になります。現段階では、もし仮にですけれども、統合後の学校を橋本小学校とした場合の、小学校の教室数の確認をいたしまして、現在5から7教室不足することが見込まれております。橋本小学校の3階に多目的教室っていうところもあるので、すけれども、その部分の改修やその他の教室の改修に加えまして、空きスペースでプレハブの建設であったり、もしくは、橋本中央中学校南側の校舎へ、小学校教室を改修して作り、また、中央中学校校舎の増築等ですね、現在の既存の教室の改修に加え、教室のプレハブの建設であったり、中学校の改修というところの複数パターンの改修が、現在検討しているところです。また今後、より詳細な検討といたしまして現場の確認や、図面の調整などに加え統合パターンの2番であれば、学校への協議なども随時、実施していく必要があると思います。また、最後、学童施設についても、これ決定ではありませんが、もし学文路小学校から施設が来るということになれば、増築等も必要になるっていうようなところも確認しているところです。こちらについては、引き続き学文路小学校・清水小学校・橋本小学校の再編統合を検討していきたいと考えております。

次に2番です。こちらは境原小学校と城山小学校の再編についてですが、災害対応に関しては、これまでの議論の中で再編統合とは切り離れた上で、災害対策の実施を検討すると、また、実施の可否については市長部局との協議を進めること、というような意見をいただいております。また、災害対応を切り分けて実施した場合は、紀見東中学校区での再編統合の有無を検討すると、そういったご意見をいただいております。現状、進捗状況としましては、境原小学校は、まず東側と北側の災害対策あるのですけれども、東側の土砂災害特別警戒区域については、紀見北中の災害と同様に、令和7年度の予算措置を要求して、市長部局との協議を行っていきたくて考えております。また、2段目、境原小学校の北側ですけれども、こちらの土砂災害特別警戒区域については、大地震でのリスクを排除できないということから、基本方針の通りとし、再編統合の時期を延長した上で、城山小と統合するとしております。こちらについては、左側のこれまでの議論では、再編統合の有無を検討するっていうところですが、一旦このように書かせていただいておりますのでご議論いただければと思います。

続いて3番です。こちらについては、学校再編の時期等のことです。説明会・意見交換会を実施する中で、基本方針の修正作業を、現在進めているところで、また、そういったところで時間が必要になってきております。そういったことから、今年度の3月を目標にしておりました基本方針の後に作る予定の橋本市の新しい学校づくり推進計画の策定期も基本方針の修正に伴いまして、令和7年度12月以降にずれ込むであったり、また、統合の目標時期についても、事務量等を図った上で見直すべきっていうふうなご意見いただきました。こちらの進捗としましては、第2期の基本方針の修正作業と、(仮称)橋本市の新しい学校づくりの推進計画の策定期を見直しまして、令和7年度中としております。また、学校再編の時期については、現在行っている事務量の計測を進めた上で、見直していきたいと考えてお

ります。このため現方針については令和9年度から11年度の統合案としておりますが、修正案として引き続き検討を行って参りたいと考えております。

また次の3ページです。こちらについては、基本方針の内容とは異なるのですけれども、紀ノ光台地区の指定校変更についてということで書かせていただいています。こちらについては、これまで紀ノ光台自治会からのスクールバスに関する要望を受けまして、通学区域を、境原小学校から隅田小学校へ変更することを検討しているところで、第2期基本方針の説明会の中で、境原小学校であったり、紀ノ光台の地域説明会の中で、保護者の皆様、地域の皆様にそういった検討しているとお伝えしてきている内容になります。今後の方針案ですけれども、隅田小学校と城山小学校の学校の選択制の導入というところが、現在検討している内容になります。また、境原小学校の統合が令和9年度というところを目標にしていたため、学校再編の実施年度と合わせて指定校変更というところを考えておりました。こちらについては、境原小学校の統合時期が延長になる場合につきましては、学校再編とは別ですね、紀ノ光台の指定校変更の方針について、協議を進める必要があると考えております。検討につきましては、地域との協議等、十分な議論が必要になると思いますので、あくまでの最短目標になります。令和8年度を目標としております。以上簡単ですが、説明とさせていただきます。議論のほどよろしくお願いたします。

教育長

報告が終わりました。

このことについて、ご質問・ご意見はありませんか。

吉田委員

境原小学校の土砂災害特別警戒区域としての措置対応なのですが、今後、市長部局との協議を行うというような形になっているということなので、やはり地域での声、そして災害対応していけるのであれば、予算措置が可能になってですね、やはり、境原小学校として存続していけるように、進めていただければ非常にありがたいなというふうには思います。

もう1点。柱本小学校なのですが、先ほど報告第1号の教育長からの話がありましたように、柱本小学校には、岡潔数学体験館が今年から開館されています。この数学体験館の維持管理とかいうことも含めた、要するに、小学校の授業と交流していくということを考えていけば、やはり柱本小学校っていうのも、もう少し考えていただきたいと、存続ということですね。そして来年、令和7年4月から紀見こども園が開園されると。幼小連携ということで、非常に柱本小学校と、紀見こども園との連携ということで、良い形で連携関係が築けるのじゃないかと。そういう意味からすると、柱本小学校の今後の位置付けっていうことも、もちろん、住民の人たちの声も含めてなのですが、もう一度検討していただければ非常にありがたいなというふうには思います。

田中委員

ご説明ありがとうございます。境原小学校東側の対策については、予算措置を要求していただけるということで、嬉しいなと思います。やはり安全第1っていうところがあるので、安心がプラスされるので、ありがたいなと思います。あと、こ

の橋本中央中学校区のことですが、いろんなパターンで考えてくださっているって
いうことですが、どこに、例えば、お部屋が足らなくて、増築等されるにしても、
避難訓練とか災害時にお迎えに来ることも想定しないと、今でもちょっと、避難訓
練の際には、人数多くて混雑して、狭い入口になってくるので、そういったことも
考えて、一緒に検討していただかないといけないのかなというふうに思います。

中下委員

1つ目は橋本中央中学校区の学校再編についてです。児童数の減少による学校再
編ということで、教育委員会として1学年2学級が望ましいというところから、い
ろいろ提案していただいたのですが、やはり地域の皆さんや保護者の皆さんの声
は、再編には一応理解を示していただいているのですが、2段階というところの部
分についてはなかなか、いろんなご意見いただいて、それに対して、柔軟に今回は
対応していくということで、それは地域や保護者の皆さんと一緒に学校再編を進め
ていくという上では、とても大切なことだなと思いました。これからいろいろな施
設を改修したり、整えていくことで、当初の予定よりは、少し長引くのかなと思
いながら、それまでの子供たちの交流だったり、保護者の皆さんの不安、それから、
再編することでこんないいふうに変わっていけるのだからというふうな、そういう意
識を持っていただけるような取り組みを進めていただけたらなと思います。

それから紀見東中学校区のことです。境原小学校、城山小学校の再編については、
本当にいろいろなご意見があって、地域の皆さんが小学校を本当に大切に思っ
てくださっていたり、保護者の皆さんも、やはりこの学校で子供たちを学ばせたい
というふうな強い思いを持たれているというのも、本当によくわかりました。それ
をわかった上で、再編する1つの理由として、土砂災害特別警戒区域というのもあ
ったと思うのですが、それに対して、予算措置を要求して、市長部局と協議を行
った上で、ハード面でも対策を示していく中で、今までの、学校再編の形と少し違
っていくのかなと感じています。それは保護者の皆さんや子供たちの災害への不安
を少し和らげる、大切な施策だったり、1つ前進していくことなのかなと思っ
ています。ただ将来的には児童数の減少というのも、なかなか否めないところ
ですので、城山小学校と延長した上でも統合していくということは丁寧に説明
しながら、一緒に考えていただくということは、大事なのかなと感じました。

藪下委員

出されているように、この再編統合を延長するということについては、僕も確
かに、皆さんの意見を聞いた中では、賛成です。何年がいいとか、それはまだ
研究していく必要があると思うのですけれども、この一番上の学文路・清水・
橋本小学校の再編統合なのですから、現状では、統合したということを想定し
た場合に、教室が5から7教室不足する、というようなことが書かれています。
土地の確保、それから色々な増築が中学校においても必要になってくるという
ふうには、これ見て読み取れます。これが行く行く西部小もということになれば、
この数では、当然、済まないのかなということですね。西部小が統合した場
合には、3学級も想定されるということで、これもちょっと、今後考えていく
必要があるのかなという気がしています。それと、皆さん言われているよう
に、境原小学校体育館の東側の土砂災害に対応するために予算要求するとい
うことについては本当に喜ばしいこ

とだと思います。それと境原小学校の体育館で説明会をしたときに本当に感じたことなのですけれども、そこに住まわれている方は、住んでいるところ、見えるところに小学校があるということに、そういうことを大切にされている方が、数多くおられます。本当に地元から小学校がなくなるというのは、つらい悲しいことだと思うのですけれども、子供たちを中心に考えたら、より多くの子供たち、また2学級を編成できるということは、僕は非常にいいことだと思いますので、この地元からなくなるということよりも、子供たちのこの日々の学習の状況をもっとこうそれを大事にしたいっていうことをもうちょっとわかってもらわなければならないのかなって感じがしています。2学級になることの良さ、それは子供たちにとって良い。教師にとっても良い。学校として良いつてことをもうちょっと強調して説明していかなければいけないかなというような感じがしています。今のところ感じたことはそういうところです。

教育長

委員の皆様それぞれからこれまでの議論、そして、それに向けて、事務局が内部で検討してきたことを、今回、進捗状況という形で報告を受けて、ご意見を出していただいたのかなとそんなふうに思います。その中で意見を聞かせてもらっていて、やはり自分たちずっとこういろんなことを議論する中で立ち返っていかんあかんのは、子供たちの教育環境を良くするということ。それと、子供たちの学習の環境を充実させるっていうこと。このことが子供たちにとって、今求められている力をつけることに繋がるのだからってということが、一番初めの、議論の出発点だったかと思います。そういうことで言うと、最後、藪下委員が言っていただいたように、本当に具体的な形として、今後、新しい学校づくり推進計画の中で、そのことが盛り込んで、今までも説明はしてきているけれども、より具体的なものとして、説明をすることができるようにしていくことが、私たち議論していかないといけないのかなっていうことが1つ言えるのかなとそんなふうに思います。

それと、安全面でいうと、特に境原小学校ですけれども、設計をして実際に工事してっていうのでは、最短3年かかります、ということで、説明させてもらって、3年後の学校再編っていうことの実施に向けた説明をさせてもらったのだけれども、なかなか地域のご意見をいただく中で、今の状況の中で、その3年ということを進めていくことは難しいということ、延びるということになりますので、その間の安全性を少しでも担保していくことってというのは私たちに求められることであるということから、前回の会議、また臨時会でも検討した上で、災害対応を進めて欲しいっていうことを、改めてここで、教育委員会として議論したことが、進捗状況の中に反映されて、今取り組んでもらっているということになっています。ここ本当にしっかり、確保した上で、そして、議論をしていくことができる土俵ができたっていうところなので、ここからしっかり向き合っていくために私たちはどういった説明をしていくのか、どういった議論をしていくのかっていうことは、継続して、取り組んでいかないといけないのかなとそんなふうに思います。

田中委員

期間が、皆さんに説明等、修正したことによって、期間が延びたということで、その間の学習や交流の保障っていうのも、前回の会議でも、いろいろ話し合われま

したが、教育長おっしゃったように、具体的にどうしていくかっていうことも併せて、お示しして行って、いけたらなあというふうに思います。先に延びたっていうことは、その間の子供たちにもプラスになるようにしないと絶対これはいけないことかなあって思います。説明のところではやはり境原小学校のところは、予算措置してもらって、災害対策してくださったとして、もうその間の安全っていうのは、やっぱりそのソフト面でどうしていくのかっていうことと、その間の工事期間内もどうしていくのかっていうことも、やっぱりこれがもし、してくださるのであれば、そこもやっぱり詳しい説明が必要かなというふうに感じます。

教育長

1点目のことについては、この計画が延びることによって、今いる子供たちの環境も、できる限り良い環境にしていくっていうことがなければ、未来の環境だけ良くしていくのではなくて、今の置かれている状況も改善していくっていうことが、必要な部分だっていう、もうこれ本当に私たちとしては大事にしていかなければならないところです。特にやっぱりこう人数が少ない学年であったりっていうのは、何らかの取り組みっていうのはやっぱりこうして、できる限りのことをしていくっていうことは、学校とも協議しながらこれはやっていく必要があるのかなと、そんなふうに思います。そして、災害の面でも、リスクが無くなったっていうとらえでは、私たちはありませんので。だから、そのリスクがあるのだけれども、でも、一定の対策をすることによって、排除できる場所もあります。ただし、境原小学校であれば北側のところのリスクの対応っていうのはできていません。だからその間、やっぱり不安というのでも出てくる部分もあります。そのことについて、どういったことをしていくのか、今もやってくれているのでそれをどう確認して行って、訓練するとか、そういうことをきちっとやっていく、それをやっている様子をお伝えする、そういった取組も必要なのかなと思います。その対策の1つの方法として、こう延びていく分、その指定校のあり方をどう考えるのかっていう辺りも、これに加えて、事務局でもうちょっと、ケーススタディをしていただくことが大事なのかなっていうことを思っております。

吉田委員

境原小学校の土砂災害特別警戒区域での東側部分での工事、こういう部分と並行させてですね、やはり学文路小学校、橋本小学校、その紀の川、大谷川の増水に対する対応ですね、これもやはり必要な災害対応だと思いますので、こういうのは、統廃合とは別に、やはりきちっと対応して行っていただきたいというふうには思います。今ここで言う話じゃないとは思いますが、高野口中学校ですね、やはり雨漏りに対する対策、これも教育環境をきちっと整えるという意味から、早急にやっていただければ非常にありがたいなというふうには思います。

参事

ただいまの、学文路小学校と橋本小学校の関連で、ご意見ございましたので、今、市としての状況だけご報告させていただきます。学文路小学校の対策ということで言えば、今、受電設備が職員駐車場のところであって、低いところにあります。それを上のグラウンドの方の高さのところ、移設をしていくということで、対応を考えております。それから、橋本小学校・橋本中央中学校なのですけども、ここに

ついても浸水想定区域になっているわけなのですけれども、橋本小学校の受電設備は、そもそも2階の方に設置してあるのですけれども、橋本中央中学校については、1階部分になりますので、それも嵩上げをしていくというような、方針を持っております。そういうことで、別個に、その災害対策について検討していることを、一部、ご報告させていただきます。

教育長

水害っていうのを想定した際に、対象となっているところについては、どういった状況のときに学校を閉めるだとか、子供たちを安全に避難させるだとかっていうことについて、あらかじめ計画を立てた上で、準備をしております。そういったソフト対策以外に、今、ハード対策としてっていうことで、学校運営が継続的にできるようにするために、受電設備を嵩上げすると、そして、学校を止めることないような形で、子供たちの教育を保障していくと、そんな方向で今取り組んでいるという報告です。

教育部長

高野口中学校の雨漏り対策につきましては、可能な限り、雨漏り等の対策を、本年度でしていく予定でございます。管理棟の部分のところは、昨年、応急処置はしてあるのですけれども、引き続き、本年度させていただきたいと考えております。

田中委員

紀ノ光台地区の指定校変更についてということですが、この適正規模・適正配置の説明に上がった上で、こんなにいろんな意見があるのだからっていうことを本当に強く感じました。ですので、検討していくことは、選択肢が増えるっていうのはいいことだなあと思うのですが、バスのルートと、どうしていくのか、その中で、隅田小学校に行く子には、霜草から回って、バスが出るのかなあと思うのですが、境原小を選択した場合はどうなるのかっていうことも、また、いろいろ、考えというか、どうしていくのかなっていうところが気になるようになります。あとは、これに期間を設けていくのかどうかっていうことも併せて検討していかないといけないなあと思います。

教育長

1回目の説明のときには、学校再編と合わせた形でっていうことで、その対応を考えていたことを説明さしてもらったわけなのですけれども、今回、期間が少しずれていくっていうこともあり、そのまま合わせていくっていう対応だけでは、なかなか要望に応じていくことをできない形になるし、そのまま、それまで待ってもらってっていうところも、なかなか厳しいものがあるということで、検討していくっていうことで提案いただいているところです。本当にいつまでとか、どこへとか、どの範囲でとっていうことについては、まだこれから十分、それこそケーススタディしていただいて、こういう形に持っていけたらという案をやっぱり作っていかないかなあかのですけれども、方向としたら私も、その方向で、今提案いただいている方向で検討していただきたいなと思っていますので、よろしくお願ひしたいなとそんなふうに思っています。

議論を元に戻していくというつもりはないのですけれども、基本的な1学年2学級が望ましいということにこだわっていくと、少なくとも少子化が進んでいく現状で、市内では小学校4校、中学校4校というような状況に将来なっていくだろうと。地域から学校がなくなっていく。これは現在、地域の説明会が最終的に終わって、地域から学校がなくなるっていうのは非常に困るという声も聞き、どうしたらいいかという、2回目の説明に向けてですね、なっているわけなのですけれども。やはり地域からコミュニティの中心になってる学校が消えていく。そして、もちろん消えた学校が、有効に地域で活用されていくと言うのであれば、それはまだ救われると思います。ところが、そうじゃない現状もあるわけですよ。例えば、西部中学校の跡地のように、全く利用されてないと。そういう意味からいうと、統廃合後の学校の跡地をどういう活用するかっていうところまで、ある程度、青写真を示すことができるっていうことが必要でないかというふうには思いますのと同時に、ちょっとあんまりこういう話をする、困るところがあるのですけれども、やはり地域コミュニティということで、世代間交流、そして年配の方からは若い保護者の世代、そして中学生、小学生まで巻き込んだ、地域の活動をどういうふうに盛り上げていくか。そういう中でやっぱり学校のありようというのはすごく大事だと思います。そして、現在の保護者世代は、ちょっとその言葉は悪いのですけれども、就職氷河期の世代からゆとり教育世代というところにかかっています。要するに、非常にその地域に対する帰属意識が少し少ない世代になってきていると。そういう中で、この統廃合で地域から学校がなくなってしまうと。じゃ、そういう若い世代をどういうふうに地域で育てていくのだと、ちょっとこれ口幅ったい言い方になるかもしれないのですけれどもね。そういう意味から言うと、もちろんある程度的人数がいれば問題ないですよ、1学年2学級にどこまでこだわっていくのだと。ここはやはり将来を見据えた場合に、あんまりこれは、最終的に、これが縛りになってしまうというふうには感じなくはないです。できるだけその地域で、学校が残していける方向、そして、地域のコミュニティとしての活性化に繋がっていけるように、どういうふうにしていけばいいかということが、やはりもう一度、考えていく必要があるんじゃないかというふうには思います。

今、吉田委員言っていたことっていうのは、重要なポイントだと私も思います。ずっと減少傾向が続いていく中で、今、全国的には10%の減少率っていうのは言われている中、橋本は20%程度の減少率、これが続いていくとするならば、本当に全ての学校で2学級がキープできるかっていうのは、そういうふうには言えないと思うのです。けれども、今の段階では、そういう環境を作ることができる状況にある中で、自分たちは何を大事にするかっていうこと話し合う中で、今回の方針を立てさせていただいたということになるかと思います。そして、それをどこまでっていうところについては、ずっとっていうことでは、縛りになってしまうっていうことを言われていますが、いつかの段階で、最終の橋本市の形っていうのを考える必要が出てくるかと思うのですけれども、今の段階で、私たちが、望ましい子供たちにとっての学びのあり方っていうのを、やはり新しい学校づくり推進計画の中で、それは具体的な姿として示していくっていうことが、自分たちに今求められて

いることかなと、そんなふうに、現時点では思っています。また、コミュニティの話についても、これ本当に重要なポイントで、だからこそ、10数年かけながら、中学校区ごとを単位としたコミュニティ形成に取り組んできているわけなのですね。まず取り組んだのは、学校に向けて支援をしましょう、学校支援っていうことをメインとした取組を始める中で、今はそれが学校を支援するっていう形ではなくって、学校を核として、地域全体で子供たちの学びも支援していきましょう。同時に、地域の人たちも一緒に学んで、地域のあり方っていうのを考えていきましょう。双方向の支援のあり方っていうのを意識したようなコミュニティ形成を、今、進めています。橋本市としたら、中学校区ごとでそれを進めていくことが、規模としては、まずは望ましいということで進めているのですけれども、一定の形っていうのが、ある程度できつつあるかなと思っています。だからこそ、地域説明に行ったときに、今の学校のあり方について、すごく肯定的な意見をもらっているっていうのはそういった面やったのかなと思って、一定の効果がでてきている様子を私も感じることはできました。だから、コミュニティ形成っていうのは、やっぱり社会参画なのですね。それと、子供にとって見たら市民性の育成なのですよ。主体的であること。そして子供たちが自分ごととしていろんなことに向き合っていく、学びの姿を作っていく。それが自分の今、思い描いている、地域コミュニティにおける学びの姿と、定義しながらいろんなところで取り組んでいるところです。これはもう是非とも、やっぱりしっかり取り組んでいきたいとそんなふうに思います。その中で、9年間の学びと言っていますけれども、9年というのは小学校6年と中学校3年の9年なのですから、橋本市ではその前の段階と、そして高等学校も入れた段階でのコミュニティ形成に取り組んでいます。ですから、中学校区において、連続した学びをどう地域とともに作っていくかっていうこと。これっていうのが、本当に私たちが目指すものを体現するものであり、説明のときに絶対必要になってくるもの、そんなふうに捉えていますので、基本的な形としたら中学校区ごとのそういう取組を充実させていきたいとそんなふうに思っています。吉田委員なんか付け足すことあったら、ご意見いただけたらと思いますが。

吉田委員

そういう意味ではね、先ほどの柱本小学校をやはり存続、紀見こども園が、令和7年度に開園されてというところは、すごく大事な点かなというふうには思いません。結局は、この橋本市のまちづくりということに話が移ってしまうのですけれども、新しい団地の部分と旧の部分があって、それをどういうふうに連携をしていくかって言うのは、1つまた、残されているところかなというふうには思います。

教育長

こうやって話する中で、自分が感じるのは、どれだけのエリアで物事を考えるかによって変わってくるところがあるのかな、そんなふうに自分とはとらえたらええのかなと思いつつ聞かしてもらっています。狭くとらえるのか、もう少し広いエリアを地域ととらえるのか、それによって変わってくるものかな、そんなふうに思っています。その辺りまた事務局でも、市内全体をどうとらえて、地域コミュニティ形成をしていくのやっという、そういう視点っていうのは、議論していただけたら、

今のところが整理ついていくのかなと思いつつ、今、皆さんの意見を聞かしてもらっています。ぜひそこは事務局にお願いしたいところです。

教育部長

承知いたしました。地域コミュニティは学校再編に欠かせないことでございますので、全体を見据えて、議論させていただきたいと思っております。

田中委員

適正規模・適正配置については、もう当初からずっといろいろ自分の中でも悩みながら、学校の大切さっていうのはすごく感じているので、やっぱりなくなっていくことへの寂しさと、そういったのと大分葛藤してきたのですが、説明会にいろいろ参加させてもらって、自分の中でもちょっと意見が変わってきたところがあります。子供が勉強していく姿を想像したときに、やっぱりある程度の人数、ある程度っていうのは人によって感じ方は違うかと思いますが、活動が広がるっていう意味では、人数がいたらいいなっていうことも、かなり理解できたように、自分の中では思います。地域の人の声が多かったのが、学校が大切やっていう声が多かったように思います。遠くなってしまうことによって、参加しにくい、地域の人が。そうなるのと、やっぱり関係が薄くなるのではなかろうか。そこがすごくポイントなのだろうなと思います。地域には公民館もございますので、そういった形で、その活動に、例えば、この前から行われた盆踊りであったり、もういろんな年代の方が参加してもらえる、そういった取組がすごく大事になってくるのだろうなあと、いうふうに思いました。近くに、いろんな年代の方が参加できるような仕組みを、やっぱり考えていってその仕組みがちょっとずつおっきくなって、範囲が広い地域で交流できていくようなことも、もっともっと今も考えてくださっていますが、自分も含め、真剣に考えていかないといけないことなのだなって。コミュニティの大切さとか、子供の成長とか発達には、やはり近くでいる人たちっていうのがすごく大事やなっていうふうに感じたので、勉強はもちろんです。友達、地域の人の見守り、いろんな関わりっていうのを大切にしたい考えでいろんなことを、それを中心に物事を決めていけたらなというふうに思います。具体的にこうすればいいっていうのは、まだちょっとないですが、もっともっとアンテナ高くしていろいろ考えていけたらなというふうに思います。

教育長

私さっき話させてもらったことも、今、田中委員が言ってくれたことも重なっている部分も大分あると思うのです。本当に地域全体で、それが生み出されるような仕組みづくりであったり、吉田委員は、それを跡地利用っていうのを考える中で、ハード的なことで、それが何ができるかっていうことも含めて、考えていくべきだと言ってきていることも繋がってくるかなと、そんなふうに思います。だから、中心に置いて、自分たちが考えていきたいのは、子供なのですけれども、その中で子供を育てていく、成長を支援していただくだけではなくて、私たちの教育大綱の理念は、共に育つことっていうことを置いていますよね。だから、ここっていうのは本質的なところをとらえて、自分はもう本当に大切な理念やと思ってるので、そこを本当に具現化していくような知恵を、委員の皆様方からもいただきたいし、事

務局もそのところはしっかり意識した考えでまとめていただけたらなと思っと思っています。

中下委員

まず1つ目は、1学年2学級っていう、その学校規模のことなのですが、この基本方針を作成していく中で本当にそれが一番、軸となって、これからの子供たちのよりよい環境とか、その子供たちを、学校を取り巻く地域のそのコミュニティのありようとかっていうのを、ずっとこう議論して、最終、学校再編の具体的な学校名や時期が示されたと思います。なぜ1学年2学級っていう基本的な考え方に至ったかという、やはり、子供たちが多様な考え方や、多様な体験、それからコミュニティに触れながら人格をよりよく膨らませていける。子供たちの将来にとって、学びの環境が少しでもよくなるようにという願いの中で、基本方針を作成したということは、本当に大切にしていきたいなと思っっています。再編することで、学校がなくなるとか、新しい学校として生まれ変わる。そんな中で、学校がなくなっていく地域にとったら、本当にこのコミュニティとかいろんな部分で、否定的にこう考えてしまう。そういったことも否めないと思うのですが、先ほどから言われているように再編することでまた新しいコミュニティが生まれて再編される。そこで、お互いに大切にしてきた文化とか、地域との繋がりをまた大きな意味で、コミュニティの中で大切にしていく、生み出すものも、出てくるのかなと、そういったふうに今は受けとめています。以前、中学校の統合・再編ではありましたが、学文路中学校・西部中学校・橋本中学校、今の橋本中央中学校のコミュニティが今一体どうなっているのか。それもまた、再考しながら、今後に活かしていく1つの参考としての資料っていうのをまた示していただけたら、また、いい展望を持って、この再編のことに議論していけるのではないかなと考っっています。

藪下委員

昨日、自分の地区のちょっと草刈あったので、休憩時間中に、やはり新聞の折り込みチラシなんか見られている方多いので、この話題になったのです。何でそんなにたくさんの人数やクラス要るんよ、少ない人数で自分らやってきたやんかっていうような、そんな意見が多かったのです。なんでそんな2クラスも3クラスもいるのでっていうな、和気あいあいと少ない人数でやってきたなという思いがあるようなので。そのあたり、やはりわかってもらうのはかなり時間かけて詳しい説明が要るのかなと思っったのですけども。なかなか、そんな、そこまで詳しく踏み込んで話す時間もなかったんで、もうその意見はそれと聞いといたのですけども。確かに子供にとったら、例えばこの柱本。令和11年見ましたら、1年生9人、5年生9人、あと14、5人って感じですね。これもいい形だと思うのですけども、しかしもっと多様な教育しようと思ったら、やっぱりグループ分け、いくつかいる。それから体育の授業であるとか、いろんなスポーツをする場合でも、一定の人数がいる。我らの学級って感じるのはもうちょっといるのかなと思っのです。答申の中にも意見ありましたけれども、やはり今いじめはあつてはなりませんけれども、現実の問題としてそれがある。やはり、違うクラスに次の年になりたいとか、子供たちの相性もありますので、そういうことも2クラス以上になればそれ可能であると。就学前の説明会のときに、お父さんがおっしゃってましたけども、クラスが2つあつた

ことによって、私は救われたと発言された方がおられたと思うのですが、やはりそういうことはあるのだろうと思います。ある子にはこの子をつける。そのことによってその子は授業も一生懸命できるっていうことも実際あるし、やはり複数学級あるのはそれなり、子供たちにとってはいいと思います。そのあたりは、やはり多くの方は少ない人数で和気あいあいとやるのも、それはいいのと違うかというふうに思われる方も多いので、それも確かにあるけども、もっといろんな教育しようと思ったら、ある人数・クラス数要るでっていうようなこと、僕は言いたいと思うのです。子供たちだけではなくて、教師にとっても、他の教師から学ぶことが多いので、実際自分もそういう経験が多かったのです。あの先生すごいなっていうことや。学校のいろんなことを決めるにしても、多くの教師がおった方がいいし。それから教師がしんどくなったときでも助け合えると、チームで学校まわしていけるようなことは確かにあると思いますので、やはり先ほどから言われている地域で、小学校・中学校9年間の連続した形で見えていく。それから、新しいところでコミュニティを形成していくってことは大事な事かなと思います。

教育長

そうしましたら、いろんな意見をいただく中で、事務局から進捗状況、計画が少しづつずれていって延びていくっていう形で、提案をいただいています。プラス対策をすることで、組み合わせ方を変えて、それができるようになるためにはどんなことが必要かということも、検討してくれたりっていうことをしています。こういった議論をしているっていうことについて、やはりお知らせしていく必要があるかな、そんなふうに思います。最終こんなふうに決まりましたよっていうのではなくて、やっぱり一定理解をしてもらうためには、経過っていうのも必要かなと思うので、そのあたり今後の説明っていうか、そのあたり、事務局でこういった形で説明をしていきたいというのは、もしあったら、お話いただけますか。

教育総務課長

はい。ありがとうございます。こういった形の議論していること、いただいて意見などですね、何らかの形でお示しさせていただければと思いますので、ちょっと方法はちょっとまた検討させていただきますけども、またいろんな形で考えたいと思います。

教育長

説明に行かせてもらったときに、どういったことで、こういう話されているかっていうのが全然見えないのでブラックボックスだっていうような、こう言われ方されたご意見もあったかなと思います。私たち自身はそういうことを何も思っていないのですが、こうやっていただいた意見を自分たちの議論として、どういうふうに意見を出し合っているか、そしてどちらの方向を向いていこうとしているかっていうことを伝えていくことってすごい大事やと思いますので、ぜひそのあたりは計画を立てていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

吉田委員

前回の臨時会のときに、お話させてもらったと思うのですが、その統廃合の、いわゆる検証ですよね。平成26年から28年にかけて、学文路中学、西部中学、そして橋本中学という形で、3つの中学校とを統合しました。このような例が

あるわけですので、その統合の結果、いいところも悪いところもあるとは思いますが、すけれども、実際にそれが全てじゃないですけれども、学力的にどうなったのか。そういう意味ではちょうど、全国学力調査という、そういうことがありますから、過去の、統合前の、3つの中学校の状況、統合後の状況、その結果を1度示していただければなというふうには思いますので。別にいつじゃなきゃならないとは思いませんから。同時に今年の全国学力調査の結果もあります。それも、どっかの段階で報告していただければと思いますので、よろしくお願いします。

教育部長

はい。承知いたしました。こちらの方もちょっと調べたいと思います。

田中委員

合わせてまだ年度がいつっていうのははっきり決まっていない状態ではあるのですが、毎年毎年、この時期になったら、未就学児さんが、どうなっていくのだろうっていうことも、すごく心配になってくると思うので、ここへの説明も丁寧にさせていただけたらと思います。

教育部長

この説明会は、5月の下旬から8月の頭まで22回させてもらったのですが、その中で、未就学児の保護者様にも2回、機会をとってさせていただきました。同じような形で、そこは考えていきます。

田中委員

多分、まだ学校に入っていない保護者の方を含め、説明をしてくださっているのですが、この状況の中で、この先、学校がどうなっていくのかなって。その学校選びの際に、やっぱり今、どうなっているのかっていうことがすごく気になってくると思うので。さっき言ってくださっていた進捗状況、今こんな感じですよっていうのは、示していただくっていうことが必要になってくるのかな。きっと説明に行ったら、その都度、その年度の説明はしてくださると思うのですが、その後どうなっていくのかなっていうこともやっぱり気になるのかなあと思うので、問い合わせしやすいような形にしといていただけたらと思います。

教育長

他にありませんか。

そうしましたら、本日の報告、方針の修正についてという報告を受けての議論については、今日はこの程度にしたいと思いますがよろしいですか。

事務局から何か、加えて説明はありますか。

そうしましたら、報告第2号を終わります。

続いて、その他協議事項に入ります。まず委員の皆様からありませんか。

事務局からありませんか。

続いて、連絡事項に入ります。まず委員の皆様からありませんか。

事務局からありませんか。

教育総務課長補佐

それでは連絡事項についてです。定例会日程です。まず、来月9月の定例会です。9月25日水曜日午後1時30分から教育文化会館の4階の第5展示室で予定し

ております。10月の定例会です。10月29日火曜日午前9時30分から教育文化会館の3階の第1展示室です。11月の定例会です。11月26日火曜日午前9時30分から教育文化会館4階第5展示室で予定しております。連絡事項につきましては以上です。

教育長

予定方よろしく願いいたします。

他にありませんか。

無いようですので、以上で8月定例会を閉会します。

閉会 午前11時25分

署 名 委 員